

(1)2013年3月期 第2四半期実績について

■実績ハイライト

当第2四半期は、前年同期比で、減収、減益となりました。

しかしながら、期初に公表した計画に対しては好調に推移しており、2012年10月15日に公表しました通り、上期の営業利益、経常利益を上方修正しております。

■主な経営施策

2012年6月より進めておりました、自己株式の取得につきましては、設定した上限株数である1,000万株に達したため、2012年7月31日をもって取得を終了いたしました。

■連結損益計算書(要約)

売上高:1,365億円(前年同期比10.6%減)

営業利益:78億円(前年同期比48.3%減)

経常利益:72億円(前年同期比51.0%減)

四半期純利益:38億円(前年同期比2.6%減)

フェニックスリゾート株式会社の子会社化により、前年同期比でその他セグメントの売上高が増加しております。

中間配当につきましては、計画通りの20円を予定しております。

■各種費用等の実績

計画に対しては、研究開発費・コンテンツ制作費、設備投資額及び広告宣伝費が減少いたしました。

研究開発費におきましては、ほぼ前年同期なみで推移いたしました。

なお、遊技機事業における開発スケジュールの見直しなどを主要因として、期初計画値を下回っております。

設備投資に関しては、主に遊技機事業における新工場及び新流通センターの設立に伴い、前年同期比で設備投資額が増加しております。

また、遊技機事業において、一部タイトルの開発スケジュール見直しの影響により、金型等の投資が下期以降にずれこんだことと、新工場に関する投資を一部見直した結果、期初計画を大きく下回っております。

減価償却費におきましては、期初計画段階において、アミューズメント施設事業の減価償却費の集計方法に誤りがあったため、計画値を修正させて頂いております。本件に伴い、営業利益等その他の計画値への影響はございません。なお、修正後の計画値に対しては、ほぼ計画通りに推移しております。

また、広告宣伝費につきましては、遊技機事業及びコンシューマ事業において、一部のタイトルの販売スケジュールを見直したことにより、前年同期比、期初計画比で大きく下回る結果となりました。

なお、今年度より会計方針を変更している影響により、従来と比べて約 16 億円減価償却費が減少しております。

■連結貸借対照表(要約)

前期末と比較して、流動資産は、売上債権の減少により、679 億円減少いたしました。

固定資産は、サミーにおける新工場建設や、Paradise Sega Sammy への出資等により、187 億円増加いたしました。

その結果、第2四半期末における総資産は、前期末に比べ、491 億円減少の 4,483 億円となりました。

純資産については、211 億円減少の 2,752 億円となりました。

自己資本比率は、60.6%となり、引き続き、健全な水準を堅持しております。

■遊技機事業

売上高: 543 億円(前年同期比 27.4%減)

営業利益: 104 億円(前年同期比 49.5%減)

パチスロにおいて、『パチスロ リングにかけろ1 ギリシア十二神編』の販売が堅調に推移いたしましたが、その他のタイトルの販売スケジュールを下期に先送りしたことから、期初計画値の販売台数には届かない結果となりました。

また、パチンコでは、当社においては大型・主力タイトルの販売計画が無い中で、市場環境が大型タイトルを中心に推移したため、販売台数は、計画値に対して未達となりました。

一方で、広告宣伝費等の販売費が抑制されるなど、期初に想定していた水準よりも利益率は改善されております。

■アミューズメント機器事業

売上高: 187 億円(前年同期比 3.1%減)

営業利益: 8 億円(前年同期比 46.7%減)

今期は大型タイトルの販売が無い環境ながら、今期の新規投入タイトル『maimai』や、前期に発売した『StarHorse3 Season I A NEW LEGEND BEGINS.』等の販売が堅調であったことに加え、一部の研究開発費等の計上時期が下期に移ったことから、営業利益においては、期初計画を上回りました。

また、レベニューシェアタイトルによる配分収益は引き続き堅調に推移し、国内のアミューズメントマシンやプライズ等の売上高に占める割合は、約 15%となりました。

■アミューズメント施設事業

売上高: 217 億円(前年同期比 6.5%減)

営業利益: 8 億円(前年同期比 50.0%減)

主にプライズカテゴリーが低調に推移した結果、セガ国内既存店舗の売上高は、前年同期比 93.8%と低調に推移いたしました。

国内施設においては、1 店舗の出店、4 店舗の閉店を行った結果、第 2 四半期末での店舗数は、238 店舗となりました。

■コンシューマ事業

売上高:353 億円(前年同期比 5.7%増)

営業損失:7 億円(前年同期 60 億円の営業損失)

パッケージ分野では、前期末から実施している構造改革の施策として、タイトル数を絞り込んでいる中で、オリンピック関連タイトルやディストリビューションタイトル等の販売が堅調に推移いたしました。

当社が成長分野と位置付けております、デジタル分野につきましては、引き続きスマートフォン向けの『Kingdom Conquest』が高い評価を受けているほか、7月にサービスを開始した、今期主力タイトル『ファンタシースターオンライン 2』が、非常に高い評価を頂いております。

その他にも、当初見込んでいた広告宣伝費等の一部が下期計上となったこともあり、上期におけるコンシューマ事業は期初計画値を大幅に上回る結果となりました。

(2)2013 年 3 月期 通期見通しについて

■主な経営施策

2012 年 5 月に公表いたしました、Paradise Group との韓国インcheon エリアにおける、カジノを含む複合型リゾート施設の開発事業について、当該共同事業を実施するための合弁会社は既に設立されており、2016 年の開業を予定しております。

現在の見通しでは、本件事業にかかる総投資規模としては、8,000 億ウォンを計画しており、そのうち、当社の投資金額は約 1,400 億ウォンを予定しております。Paradise Group 及び当社からの資本注入の他にも、当該合弁会社において、借入等の活用を検討しております。

■連結損益計算書(要約)

売上高:4,700 億円(前期比 18.8%増)

営業利益:660 億円(前期比 13.2%増)

経常利益:650 億円(前期比 11.9%増)

当期純利益:400 億円(前期比 83.5%増)

通期の業績予想につきましては第 3 四半期以降に予定する主力製品の販売動向等を見極めた上で、修正が必要と判断された場合には、速やかに開示いたします。

期末配当につきましては、期初計画どおりの 20 円、年間で 40 円を予定しております。

■遊技機事業

パチスロにおいて、『パチスロ攻殻機動隊 S.A.C.』の発売を発表しており、その他にも、当社の主力タイトルの投入を計画しております。

パチンコにおいては、『ぱちんこ CR 神獣王』をはじめとした、複数の大型・主力タイトルの販売を予定しております。

また、主に液晶を中心としたリユース等による原価改善等にも引き続き取り組むなど、収益改善に向けた取り組みを行ってまいります。

■アミューズメント機器事業

アミューズメント機器事業に関しては、今期は、製品開発のサイクル上、新作の大型タイトルの販売予定がないため、一時的に、利益率、利益額ともに、大きく減少する見込みとなっております。

■アミューズメント施設事業

10月に、セガのAM施設部門とグループの施設事業に関わる子会社である、『株式会社AGスクエア』及び『株式会社セガビーリンク』を分割統合して、『株式会社セガエンタテインメント』を設立しました。

「セガエンタテインメント」においては、スピード感のある意思決定で施設ビジネスの抜本的な改革を行い、新業態施設による新たなビジネスチャンスの創出を図ってまいります

■コンシューマ事業

パッケージ分野で、海外向けに『Sonic & All-Stars Racing Transformed』や『Football Manager 2013』、国内向けには『龍が如く5 夢、叶えし者』の販売を計画しております。

デジタル分野につきましては、今期主カタイトルの『ファンタシースターオンライン 2』のマルチ展開として、プレイヤー向けにベータ版及びスマートフォン対応を開始いたします。

その他にも、『Kingdom Conquest II』をはじめ、4タイトルの主カタイトルを第3四半期において集中的に投入する予定です。

その他にも、携帯電話・PC向けパチンコ・パチスロゲームサイトの『777town』においては、アンドロイド対応を強化するなどスマートフォン向けの取り組みを強化いたします。

なお、デジタル分野につきましては、7月2日付で、従来セガとして展開していたネットワークビジネスの主要機能を会社分割し、新設の株式会社セガネットワークスへ移管しており、今後は、本ビジネスで必要とされる、経営意思決定の迅速化、ならびに、多様化する顧客ニーズへのきめ細かい対応を図り、デジタル分野の強化に積極的に取り組んでまいります。

また、玩具事業においては、『ジュエルポッド』や『アンパンマン』シリーズなどの拡販に取り組めます。

アニメーション事業では、劇場版『それいけ!アンパンマン よみがえれ パナナ島』からの配分収入増を見込むほか、制作原価改善の取り組みを進めてまいります。

以上

※本資料における業績見通し等の内容は、現時点で入手可能な情報に基づき、経営者が判断したものであります。

従って、これらの内容はリスクや不確実性を含んでおり、将来における実際の業績は、様々な影響によって、大きく異なる結果となりうることを予めご承知おき下さい。